

第12号 バージャー病NEWS

2019年3月10日発行
発行：認定NPO法人バージャー病研究所
〒302-0118
茨城県守谷市立沢 980-1
TEL 0297-47-9955
FAX 0297-45-4541
http://keiyu.or.jp/vascularcenter
E-mail:vascular@keiyu.or.jp
発行者：岩井武尚
編集：小笠原敏子・宮口順一

バージャー病は、動脈も静脈もやられる血管の病気です

バージャー病は慢性閉塞性動脈閉塞症の代表的疾患なのです。

バージャー病(Buerger's disease)は慢性閉塞性動脈閉塞症の代表的疾患なのですが、道通性(遊走性)静脈炎などよばれる静脈の病気を伴うという特徴があります。ところが、最近患者数が減少していることもあり、静脈病変の最新傾向や発表はなされてはいないのが現状です。



そこで過去11年間に当センターを中心に経験した症例について詳しく調べてみました。その総数は、34例で、動脈所見、嗜好、年齢、除外疾患の精査から塩野谷基準という一番厳しい基準に合格した人のみを対象にしました。

内訳は、男性33例女性1例で圧倒的に男性が多くなっていました。病気の発症年齢は37歳でしたが、こちらで静脈の検査を行った年齢は約20年後の59(26~86)歳でした。これらについて①道通性(遊走性)静脈炎が今あるか、過去にあったか、あったならばその静脈炎部位の超音波所見はどうか、②下肢および足部を含む深部静脈に血栓症があるかどうか、あればその程度、③深部静脈の弁が壊れて逆流をとま

ら症例が無いかどうか、④表在静脈ならびにその分枝に静脈瘤はないかどうかなどを検討してみました。バージャー病の診断は、結構難しい例もありますが、若くして症状が出て、ヘビースモーカーで動脈硬化のないひとをまず疑います。検査をすすめ、手だけとか足だけに動脈閉塞があるというような別の病気で起こるものは除外します。女性に多い膠原病も鑑別します。歯科医による歯周病の程度や禁煙した人では喫煙時の歯磨きでの出血の有無を合わせて聞き取りました。

実際に行う静脈検査は、バスキュララボで両下肢を十分露出した状態でを行います。まず、立った状態で深部静脈の血栓の有無、弁不全の有無(逆流1.0秒以上)、下股静脈瘤・穿通枝の逆流(逆流0.5秒以上)、血栓の有無を検査します。次におおむねの姿勢になり色素沈着がある場合や既往がある場合はその部位を中心に下腿から足部の血管性病変を検査しました。足先にバージャー病特有とされるrubor(発赤)がある患者では、足趾を含む静脈の状態を検討しました。

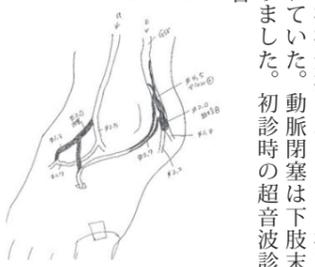
その結果皮膚に、線状の発赤があったことがあり、静脈炎がある、またはあったと判断した道通性静脈炎症例は34例77肢中14例17肢(44%、平均年齢60歳)でした。今まで20~60%といわれていたのかなり多いということですね。部位は、大伏在静脈の大腿部から足部まで閉塞しているものが2肢(1

例)、下腿より末梢に認めるものが7肢、足部のみで認めるものが7肢でした。エコーミックス症候群で知られる深部静脈血栓症は5例8肢(15%、平均年齢66歳)でした。血栓存在部位は、ひらめ筋静脈のみが2肢、両側大腿・膝窩静脈・腓腹筋静脈1肢、両側大腿・膝窩静脈1肢、膝窩静脈のみ1肢であり、全て陳旧性の古い血栓でした。深部静脈不全は9例15肢(27%、平均年齢59歳)でした。逆流範囲は、大腿・膝窩静脈7肢、膝窩静脈のみが8肢でした。下股静脈瘤は20例31肢(65%、平均年齢61歳)でした。1例1肢は硬化療法、1例2肢はストリッピング手術が施行され、1例2肢は圧迫療法にて経過観察中です。

あった症例のうち逆流を伴い潰瘍の潰瘍と判断された症例については、虚血とは言えない足関節圧ABI0.75、拇趾血圧TBI0.5以上であれば注意深い管理のもと軽度の圧迫療法や硬化療法、レーザー治療などを行い潰瘍は治癒させることができました。

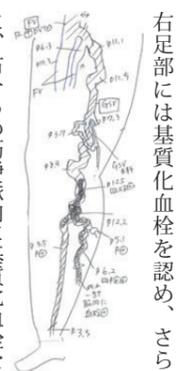
症例を3例ほどおみせします。

【症例1】49歳男性。主訴は右足親指の潰瘍と疼痛。45歳時左足人差し指の潰瘍と疼痛発症しバージャー病と診断されていた。動脈閉塞は下肢末梢にありました。初診時の超音波診断では右伏在静脈の部分逆流と足部の右伏在静脈の末梢と後弓



た血栓、静脈閉塞を認めました。禁煙と抗血小板剤内服により改善しましたが、49歳時右腰部交感神経節切除術を受けて、約1か月で潰瘍は乾燥し、経皮酸素分圧の値も正常化しました。足趾疼痛は改善し、重度の歯周病があったが歯科治療を行い改善、禁煙を継続した。好きであった登山も可能なまでに良好な経過をたどっている。

【症例2】68歳男性。35歳発症、バージャー病と診断された。禁煙出来ずに診断されてからも20本/日程度の喫煙をしていた。初診時超音波検査では、両側膝窩静脈・両側伏在静脈に弁不全を認めた。右下肢の静脈には基質化血栓を認め、さら



に、右ひらめ筋静脈内に基質化血栓を認めた。下肢の腫脹の既往はなく、深部静脈血栓症は無症候性であった。下肢の痒みがあり、右ABIは1.0近くあるためハイソックス指導にて圧迫療法を行った。

【症例3】40歳男性。39歳時発症、バージャー病と診断された。右下肢の伏在静脈に発赤があり、同部位に血栓性閉塞を認めた。膝窩静脈の逆流と小伏在静脈全長の逆流、壁の肥厚を認めた。

(こまごまの原稿作成にあたり、血管診療技師本間香織氏の協力をいただいた) ※数値の小数点以下は四捨五入とさせていただきます。

私はいっしょに歩きたい

今回の対談はATさん68歳です。66歳頃から当院にかかっていました。なかなか診断がつきませんでした。65歳頃から足指の痛みが強くなり、その痛みに対してどうするかに悩まされ診断の糸口が付きませんでした。



★50歳以前になにか思い当たる症状や事件はありませんでしたか？
そう思うと足は40代から冷たくて、30台から痺れもありました。長く(2~3km)歩くと足の底が痛くなったと思っ

★たばこはどんなふうに使ってましたか？
20歳くらいから40年間毎日20本は吸ってました。酒はやりませんので、まあタバコは楽しみのひとつでした。今は全然吸っていません。しっかり禁煙できています。

★歯はどの程度残っていますか？かなり重症であると自覚していたようですが...
歯は、20代ころからよく抜歯しました。今、上が3本、下が3本しか残っていません。(注：バージャー病患者さんの中で、全く歯の無くなった人は2人知っておりますが、一人は20本以上のインプラント、もうひとかたは入れ歯などなんでも食べられるといっています。ステーキでも。)

告知板：第十二話 痛みのコントロール

バージャー病の治療はきわめて深刻です。痛みをとり煙草をやめさせれば、病気が快方に向かいます。昔病室でバージャー病患者を探すのは簡単といわれていました。患者さんはベッドから足を投げ出し

ふらふらと下していたからです。脚を下げていると足部の血圧が上がり、痛みが軽減されるのです。痛み止めは座薬がある程度有効ですが、持続時間が限られてしまいます。腰椎の硬膜外麻酔法(カテーテルを腰から挿入し麻酔薬を注入)は2~3週間の鎮痛効果があります。指先だけの痛みならばトリガーブロック注射も良い方法です。注意をすれば歩行が可能

になり、患部は乾燥し、温度も上昇します。痛みがとれば微妙に血行も改善しますので、それだけで治療となるのです。血流改善を目的にした薬の点滴では、薬剤が患部まで届かないので戻ってしまい、かえって痛みが増すこともあります。この治療は意味がないのですぐにやめねばいけません。

二次感染によって痛みが増している場合もあります。こうした場合には感染菌を調べ、抗生剤の投与や抗菌剤の塗布を行います。患部の清潔を保つことは必須です。加えて難病特有の心のケアも大切です。入院日数を気にする人が多く本人もすくんでしまうようですが、脚を救うということは時間がかかることです。医療スタッフ・家族など周りの人々の協力は不可欠です。

難病と「いっしょに生きる」ための検査・治療・暮らし方ガイド
バージャー病より抜粋

ATさんとの対談はこの辺で終わりますが、動脈閉塞は両足の末梢、両手の末梢にあり、バージャー病に特有なコルクスクリューリウマチのようなバイパスが見られています。原病の疑いはなく典型的なバージャー病といえると思います。(岩井)

当法人は皆さまからの寄付金により運営されています。たくさんのご支援、誠にありがとうございます。
■寄附受付口座：筑波銀行 南守谷支店 普通・1057042
■口座名：特定非営利活動法人バージャー病研究所 代表 岩井武尚
■事務局連絡先：0297-47-9955 担当/小笠原

バージャー病相談室のご案内

バージャー病研究所のホームページでは相談室を開設しております。日頃から気になる症状や疑問に思うことなどお気軽にご相談ください。ホームページからのメールフォームでも受け付けております。お気軽にお問い合わせ下さい。
http://keiyu.or.jp/vascular/

イヌだって歯周病!?

ペットにも歯周病がうつると考えられています。飼い主がペットに食べ残しを食べさせたり、口移しで食べ物あげたりすることで歯周病菌が感染しているのです。実に3歳犬の8割は歯周病予備軍です。歯周病の原因菌のひとつであるジンジバリス菌は人間にも犬にも猫にも感染します。犬の歯周病も口臭や歯茎の腫れ、口内の痛みなどから始まりますが、話すことができないのでほとんど気づかれません。放置されがちです。歯茎の深い部分で膿が増え、口まわりやあご周りの骨が溶け皮膚から膿が飛び出すこともあります。頬に穴が開いてしまう状態です。この場合強い痛みと大量の出血を伴うため犬にとつて大きな苦痛となるので、飼って可愛がっている方は、豆知識として頭の片隅にとどめておいて下さい。